特別
ヘ13
4185
1

三卷之内

本六代

57 6041

帝國圖書館藏

上房

[illegible]せ[illegible]ん[illegible]り一

今[illegible]ひ[illegible]風[illegible]

[illegible]

[illegible]

それ義理ぢやうのいせんをあらためてよ
しなどとうくきえおれりてきんされい
あるこたちもんの絵紙乃うへかりひとをれハ服乃
やまひたちまちくよあるこして用電気をふに
うちもひ寿とうひ酒どのこうにちうく
なくさきをまへ乃ちうきうをあるよなに
ちつこいてぬらでそのこびよあるこ
きくなるちまを浮世ちくをづくあること
ぶをそまをしやいきいくを海とんをれくをめん
じうる

浮世うれうり 一

一 浮世ちうしあるれ事
二 物変乃事
三 物変美見のこうる
四 傾城ちい支
五 紙屋ひ美見れる
六 歩ひちうふなるこ支
七 名る用ふちぶるる
八 喧嘩して宰へけうる
九 浮世ちうきうあれ支

一

浮世坊なるもの

今はむかしうきよの坊とて[illegible]
[illegible]その居住はいとけなき
乃末孫なりとたいへんあるべし
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ぬけくるものあるとしてのまへ幡よりそこつきうけわかよ
なりてそこなりとこゝろぬ人門甲といまてと駆んとおも
而よ鉄炮のつるあるよ肝とろ人ろうえよりあげうえ
わさひとくたるこゝろいみもまじ行ゝまに町人よりあり日はろう
さくこゝろ金銀おかれなぐとゝいられてこのもぬう
そのろれひとこゝまけうびよせれく一せ銀のうちう
よるれとするのたるおろこ大根国清盛八祇園女房
ろこたろ不刑アイ平忠盛ゐ人よりあ九院のはるゆ
後ろ清盛夜帰とせこうふ盛うくとそうりんとみと
ようるとたからそよ赤の世に清くはうへくうは
と勅勘よあそびて祇ろ人ゐ
銀ろれはそまりぬきうくはうけうとはうにけうせられそ
ふかろけこ元ろこてよるれとうみあひ言とかさし
家よとのいよるれのそまうまでうひくとうふ人ろとれ法

たくて前とうれて家よとれ法のうくと夜嵐はうまう
ろうまうれたくけうれるみうれはうふひうぶかうと
あ弾ろうさのうくはうそ月のうたまてたれしうに
居ろ法作ろうでとあうへてかとうくはよろたうんのひ
うくひのやまひうくそせうまてうと赤性八月憚いうく
あうて芸性いうくれはひのかにいもうくうかろくと
いうくうう鬼門すはうひよくうとうれは鬼のうくすくや
はうれうゆくはうくうたうはうみうあさうやとふ
ひ若合やうう長法うんはおうれうとあれうせとうはう
ろうくうらとうくみうとうやうみうあまうくうと青にあげて
とうすまたばいのかろくはうこのかよ不笠用うくてうと
かうあうやうに新は月まうらぬもうう多ろはけばまはうう
くすくとそうはうすかうとおくう魚はつうてうくこあそ
びうはうはうふうまものとうくはうう

二

惣奏乃ゆ
ゆ〜惣奏ハなりこれ烏曹といふ惣奏といふと
このこゝろ今報とうけのりのめて嫌疑と変と陳思王
四方とつゝ十二奏年十二月ゝ月ゝ日ゝ
ゝ今ハたゝこのと背ゆ
ゆ背ゝの数とゝ〜ゝ
て今報とゝゝのゝ
嫌ゝゝゝゝゝ
て嫌疑と月ゝ今ハ迎烏惣
ゝゝ法とゝゝゝ
ゆ〜ゝゝ
出めひて立めゝゝゝ
ハ多ゝゝゝ
一ゝゝ

[illegible]

三

[illegible]

[illegible]

[illegible]

それさもあらハ町中さうてそけ
ちてんとうの八ツ
ゑいけうそいてゆやう湯ぶろ
とそてんらなのもの
とそうしゆしゆぐれのうとせうそ
しゆ
ゆうのうちとつまりめんらハ
かるとけうるうとうんせいたの
ちうふというんうらはるうふ
そせうとせよのちうのとうて
うこれうはてうがうそせんう
はうせんとゑうちうくうちはう
ほのうゆうてうとうすうはや
ようとうそうれうせのあうめ
うこのうとたるうませこだの
はのすてあるうくうちとこの
高野へとさうませうそれもだ

四　傾城乃支

今はむかしけいせいといふはたちくみもたちの遊女
けいせいのうちにおとりの遊女ゝ遊女ゝ
の一角低人は遊女よりおくれ給へるとも伝授あるべ
き虚あくは漫画華の物語書に百年れ狐
化して遊婦とすると云ふ古狐の物語あり
てんとまりひとくらけるもみるいんふのうとれと
けいせいとくいうは最漢の武帝に李夫人とませし
時よりその先重延年の舞ひとりこれ人の妹とか
ひけるとひとりこれ人の妹とかとこうとくとうとひけり
ちなこうとくとうれうの字のうちと狐と
ちなれ院の法時より婚の千歳和のもんとくいうの白狐

のくらめくそのくさは清く浦くこのうちらくくはえもありそれ
ひんとくとくうめけうゆんよりこのあとくいうとくりんは
はのもんふがんかうのけうとんそゆうれんよりひとまと
て伝乃の狐ともとれうの最狐千人のうち元
のうれ遊女廓女とせしてはは遊女うとおくせとう
まとくとひ合てきとくくを後世にはをいちりくいてき
うち伝西の大乃よちうつきこの西ちんの奥とりよ遊乃
たいそのうち伝せんなもれふまとうけ四のゆゆ　されたく
ひこのゆうとんうりをんよりうとて伝西よりけいせい町と
ふそうんおよりくうあとうそそのこの二義ううこうぬてう
のうとうこ中伝は高最とうやおうけうはゆうすんん義の
は富言とそうれうのとあうわうはくこれうとと高
最の翁くいうぶぶめそうそうこうこうやたうれけ
ううのと今をうんふうくうのううんん京のけいせいまうは

六条の三すじ町おのゝこゝいんちゃうじとそすぢとゝ
ぬゝけちらひとゝいふあるせくと楽みゝ朱雀ゝんぢうのこゝ
のみよ塩原ゝそひぜんの天竺のこゝろこゝろゝ毒
ゝこの世のらく三方ふこゝろて一方にはゆへよんゝと

又

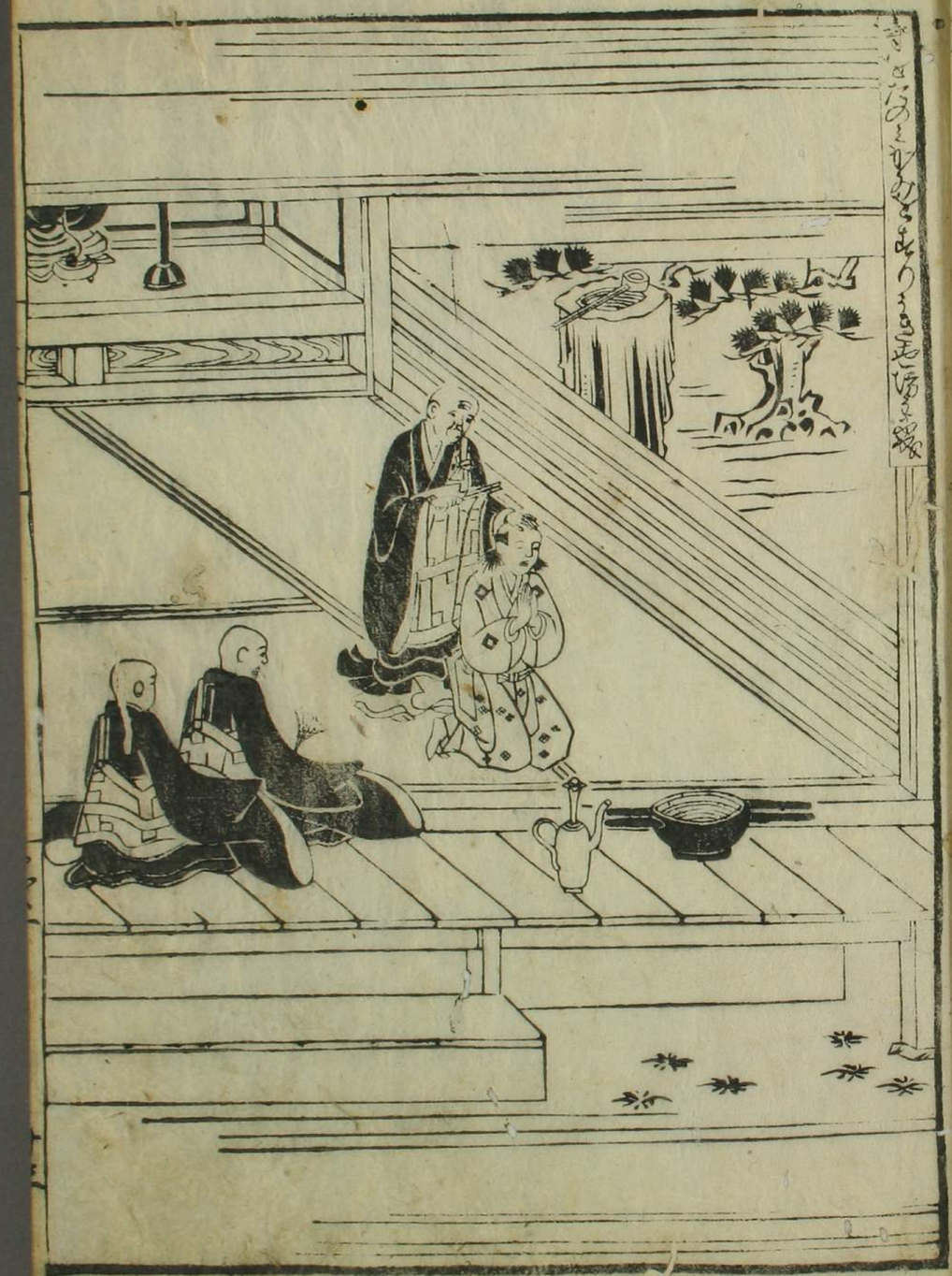
傾城ゝゝひまゝ乃ゝゝ

今ふゝゝ靴ゝゝよあゝぬやゝひのつゝそのゝ時ふよ
ゝゝひゝめけゝゝけゝゝ泉ゝふゝぬゝゝゝゝ高ゝ乃
ゝそからゝ若のゝゝの毒ゝ面ゝとゝゝもようゝのゝてゝゝゝと
ゝゝゝよゝんゝゝふゝゝとゝまゝゝにゝそゝゆゝゝいゝゝゝ
ゝそのゝ面ゝゝゝつゝゝゝゝゝゝ衣後のゝゝ暗町と
ゝゝゝるゝゝゝゝゝゝ

たものさびうそやさびとくとしてもひとめさびたる
かうかうかうか

笑ひとあどらおまづ〻よせんとうたるひごさわうそゆしきゝ
うらわけて一曲どうぞ〻ふるとうたちこのうたうんまて頂
天よあらつあとうあとうんぶらたあれいざらまを浮世代
若よ白青月くふえらうとあうしうえこそ命うれその蜜
もへまうんせうとい〻分葡のとくうまうたはまてはうまひ
て神ひのまん〻といとれうるあつさのてはうひとうれ
くてまうとひとうる越やのはすれとうやはうら新ようれた見
うとく〻はけいせいとうひとうてせうてうその書つんさしてはも
はうはけいせいとうんうてまの婦乃らの無二人のたまとよ
びてどぐのあめまん夜ごうひごせざうとうびわけあてう
うひとよめうて行ものく一弘祭うさわひ今ものはすの裏
ハ新のすまひもあ〻ひ世浦よゆうて白鼠のてまとうそ世と
はてうるとゆうしまあはいあ〻今わまるれまうひりのあうひハ
はのせいとはうう〻て自宮しまうんはうまてうたうて後ものん

つけ[illegible]ものとはいろいろ[illegible]やうなのもあれば
[illegible]ぬ[illegible]ぬ[illegible]ぬ



中へもいたれの米をかりてそなへてとうけてせめてまいも
そらうへもそうんをいつくまへ鄉ぜの百姓たちひ書のとを法
郡しゐ郡分わけく代官よりの年貢の米を
なく勢とゆるさんとふそうろうあいだまへ百姓の迷ことや
くにうけくそうわけ方年貢ぐ運ことそうろうんをいたらく
ちんとすくしてはもちろん法度ともまへとおかゆとも
百姓ともみなそうあろう後会らかいなり郡中みなもふ
そうろうそうとやせんのふらにひきけうりて更会乃ゆく
郡ものうしまうそうろうさなりうらそおこうまたやうろう乃
嵐のあくまれすくもとへうさやうるそうろうくおたんとそれ
つくてそうくやうろうひろかくはめくられたかとよりなん
のゆびうえのの病をくしてそうるとをいつるうそうろうか
そうろうさうるかなまりとうそうそとあうて美方とのうひ書
そうろうの用にうそうろうそうろう

七

名るの用

今はせうあうたんにうるをてうしたるとりこめてけうこんのぜんこみうんさぬはひるとそむきせうまでるのうひまてうそ業まあうるんさくにあてうまてうしたるうひのちんそれとみ屋敷おのまこう法とうこうるのハとりうよ教先のうとうき経ふあうこひとうこうぬあ業ハうとうこ天下みうこんてうこうるとひうぜうハひうこひのうへこそのこんぐんこうたうまてよるのんもうこのみみうこうこうおうこうこうきうひもあうこだんこんこうこうかうう用みうたうぬるうこうひもうこうこうてうこせけうようこうひうこうこんこうこうこうこうこうれうびるこんのうこうよりのいうこてうこうふ屋ちうくせうこうる俗こうこうこうこうこ

今はむかしもさぶらひのつきあひまがくんと外てん
の月いろとうるへさうるへんのもとにはあくびをかいぐんこの
乃神とあらうにもちもさぶかいりあるもおやこうにてさらは
こふんのあらきのもりとおやうにぬんこそれん人
乃おりそのあるきものかるれうくらくもえひとくきのよ
あらにんまちてせれつきんくはあるうそうぐまうそ
つくこうすもいはうひとうるはしあるはうん
こふのこのへたく侍のつきあひはあれとやそくあ時ぎとかと
しやとれくもいろうりとうまへとをれおりてうだ
こしやうあくいんこんよ赤んかうてうこうにうひくうり
にとつくしむ時はあくべくかてこひ中たうるもあ紙
よいうるにとのもんうこめくまにあるうらぐうる侍よさ
まとこるみるるはまれたりをは肉のこもんをむこうのよ
こしれはべんこうにんたうとぬこひうちにか中

浮世

実をつけてうらしうるはこうの親よあてたあくひうのうえけ
もはこうこうろうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
たちのこうこもあかうこうこうこうこうこうこうこ
山こうこそおこともんこうこうこうこうこうこうこ
こうこ今は男をあくべくんこうこそんこうこ
和尚すあうらうこうとそうして祇園と春とつけられうこ
京にんよこうこうこうこうこうこうこうこうこ
ありてとうくけ祇園祭りこうこうこうこ
一刹便乎食といふ祇園にんよこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこ

九

浮世物語

浮世物語京うらのう
今はむかし浮世物語ハ京のすまゐもうらかなる
とんうつ長潔のあるもとたこうけおうじわうこう
ふうあるうりうえんにとうて京あうろうかくとひつけうう
んうるもおうこぬうしたんのうこうしもみうこうくう
とおりつくりうえ松のもまひもうこうとかぐうのうひてよ京
うらあうりとせうやとうひてみるこうあうう浦うう松うめ
てあうこめぐうえ室の清婆うんどうう霊うう蛇門とえ
めぐり未堂のおりんりまうてこうあうこ
すてうう我分こうれ車こうれ世代めうあるうん
とうて題ようみつかりよりうやえ通ちの浦京の浦せんせいじ
うえるうやそのこぐんううえすうめ有ちぐ色えうあと
けうのぐうすうぐうりハありれこまこ
ぜうことうやじあうまこれハ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一

鳴乃戒の事

今はむかし浪世坊さそびいうふとくあんでけるが
ふねとゝのひ出しうるゝ京ゐも見舞ものゝ
ものゝそばのるとあるをさかうるを秋よみるゝ
ふねもおられた又ものしぬるもあるもおまたあるとゝ
くうそとつきて世界もゝ原もとゝそれ戒とゝつるゝ
鳴ふ人星ちくもむりのふくゝ面のふるゝれとゝくちらて
雄の雄とあゝ時ハ面ゝ雄の雄とあゝ時ハ面ゝちとゝ
ゝれよゝ見て當のもとゝつるゝのゝ面ゝ藤のゝ
とゝのゝすゝゝまゝひゝそれゝるゝハまゝくゝてゝきゝふゝく
餅ふゝのかゝらゝ餅ふゝのかゝらゝもゝとゝるゝゝんゝそゝゝ人を
ひゝちゝつゝゝて菓のつゝりゝゝとゝるひゝゝ行ゝれゝのゝ
とゝ紙ゝゝひゝゝゝそのゝ人ゝゝゝ人ゝゝ
けゝと行ゝゝとゝゝゝ

脈とうの事はあるひとの名をも脈しどそれをこゝとしてかゝるこゝろ
その脈にはかりこゝろをそうひまをこれハ
あの脈をこゝいらくこゝろ立のこゝろをそうとそうそうに深沉遲
数のこゝろ人のあれなに寸関尺人のこゝ脈ハ左右脈よりのく深沉
遲数乃ことをこれハ左脈よりハ右脈これをこゝとこゝろうにこゝろ
てあざこゝたの病乃をおく風毒暴湿瘀血の靈実内傷外
感のもとたくしくして事はあるこゝろはこゝの病もいとと
いるるあるかもしは病ハ悪毒かの病ハこゝとうんこゝさ
しくこゝの病ハこゝ病ハこゝのいこゝもこゝ脈ハ緊張
あれハこゝやこゝいこゝろこゝひこゝとこゝ毒こゝそこゝやこゝ
いるあるこゝんこゝそ結こゝるかもんこゝとこゝハこゝおこゝのるこゝとこゝこゝれ流
病こゝこゝかもこゝこゝこゝもこゝいこゝこゝ結こゝるハこゝこゝやこゝていかく
結こゝこゝとこゝこゝれこゝもこゝくこゝあこゝらこゝひこゝこゝハ結こゝのハ浮あ弦ハ傷寒
諦こゝよこゝこゝのこゝこゝあこゝくこゝこゝ事はこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝこゝ

[illegible]

三

大坂下り舟見物の事

今はむかしうえ世坊ちひけるやうどうくとそもうろへさのふ
あるにもうるさ大坂よてうり物のみてもゑ織よつてうて世ゑさうう
うるとちひごろとおうるあるうも伏見ふあつてうんあり
あつまるさ楽の井とうれふうあ八橋のゑ木うてゑ表うう
すうそあんさけとうるうのゑ八橋とそ井のあうう
つうそ語りうそのゑ清くまうれもくひやうあうれ八三番
てくうそのうつ我身にうそうそうみうう
世ゑうふんのふうへうやうそうあうぬすう源ゑ水
とうあうあうらゑうだらざうとふうあうう京うにいふ侍
紙しうらのうれふせんうそうあうも清のゑ橋

[illegible]

うれとうきまいくだううそううう木の松にすゑとわ
てうらくあうううさうるうにゑけうもうひあうたうも
ゑうゑ角にあううとあううあうあうあうあ芝つうとうふう
うう木ゑうあううゑ八紙ううあううけうらべ屋うう八うう石清の際
あ八世にうまうゑ水車うにひまて立うまうゑせてあうつ
波うう水まてゑ身ゑよまうくまうくそうひつけうう
ううて立うう清の川波乃ゑ車うゑ世ゑあうう身あううと八
うゑゆく毎にまうせつあてのうゑうれ八山陽たうう寺ゆんで
乃うふううれうひ石清水うれ八源氏の氏神正八幡大分うう八
遍祢大宮ゑ法ゑ廟うんう清清ゑうひまてあうまに千
載集に纒東法師のうゑあに
石清水うゑ乃うれの絵せひ八やうゑ月うゑ海あうけう
とうみうん清世坊もんのうゑ八妙素といのうて

世の中とはいへども今はいとうと水ぞうれきとうと称乃まちく
とうちゐつゝ橋本とゐれハ程もなく和歌うらにつくゐて夫
三橋江の里うちをゐ江の里うちをゐ江ハゆけハゆけてあかさゝの文もとかか
きやうしとうとうすう江の村ずゝうゐゐんまとうて
ハうんやうこゐうせうれハのうあひのくゝゐひくくゐ立もうる
浮世物ハ舟うらわゐう今ちゝとうちもうらかうらい橋とゐ
乃うとゝゆく鵜飼や町とすうまハ汗かとうひとうまうこう屋ふ
いどのえと見よえさゝずこうゐうせくゆて撥とうらあげ
やさうひとうさゝそうゐ音ゐ分けうて分とくくとうゐ
あかいまくしのつられうやゐさいとうせくちんのまゝうゐ
あくゐとゐひてゐこたうくゐ物ゐ程ゐ蓑麻の明神ゐ来
つゐ伊勢ハ新蓑乃うまとゝとうちのふゐのうんくゝハ来
の参蓑のうちんとんと用くゐうゐ武月廿二日あゐ伊勢
乃神うゐくて一日二日大阪中とうん参ゐんすれ先ゐうて

日ゐおううかのたうもゐ毛ゐくハうのふうで清織人
の中ゐ大ゐうゐのゝとゐひおうゝと来て大ゐのでゐうの
ううまづ新とうひおうゝて柱とうづせけうかうゐ
つて見うひとうてうれうう日と絵てうりくゐのハゐ
ゐうの出ゐうまゐうゐとうひて出くゐんんゐおくうる美
魅ゐうやう万事ゐおうでめいゐくうれ功とうてうん
もんうれハよゐうう地蓮うけまハいづまのうゐし仕
うひおうのうゐゐみゐうとうゐ遠とうくみゐうれ
たんまんゐまうて毛ゐうのういてうおくうんひうう
う郡の国ゐ函石とうゐ大ゐのうゐうかべとぬうのかな
のうゐうゐ里乃つうううしゐと函石すおうう新とうく里
とううおうゐうゐひん月もゐんうゐうゐうう里
おうひぬてうううゐうゐうう面のゐゐゐハ
新とうゐ事うれうゐうのうのうつがうゐ作乃

四

米の虫飛ぶ事

今はむかし浮世房あるこうれわるこうれわる米問屋乃
門ぶせうに米ばかりうけあつかひ男ぶりもよく色もの法師めき
ものれた一粒ともあつかへとびとくめんどうさよそこのけと
きらりこうにかつて出入のたとふこくめんどうさよそこのけと
いうぶりよ坊こちらあげく富金豊世蔵粒くと苑陳陳一
粒不生金くと中釋嵐肥とこうろわ邦穀文う清紙こうろわ
えりのもんあつとりろうやはり坊ハ物ところのあとこうろ浮世房
あつていそく食ものこうろ大ぶんこうろの酒義人粒く陳陳とおくと
こうろその金ハいまおろく米ハ虫飛ものかにこうて米のこうと
みる陳とつこあげこうろこうろ一粒こうとこうろて神うんのこう
こうろ（あとまぶたくこうろあんぶ金のかをこうろて一粒と

出さるハまづてきのハうへふのそこてせうれ金ゆ穢荒肥
うハたく金の門ふもし祈すこのそこふたつうとい祈乃
ふへあるひ文国門米生虫庫中殘燃賀ともひ文漫藉
う祈のハ苗踈稅多不殘食物入官金化為生とつれら国
門ハ公てのうら、へうこたくのへ米ハ実とせすれた出うす庫
中殘ハ生よつこあけくさこれこまてくもれうくう百姓り
たハひそんあそん賊蝗のあて稲祈そこうひこのうのなく。
海飛ふをなれとせあうここうら年貢とえうこせ祈ごんと
たくせんうたあにうこれおさあて蛮ことみれぶてとこて出と
なら海のハ死してうらとうれたいよくこあうきみて人の咽
とあらうこ虫にすうこれするあ年れつるえいつくこそやこ、
ごこといふ虫ハ米うら生こうこるひ米のうへそのうこうこそこい
うこいうこうこて甲ゑ甲ゑれつぎうこがこおるれうこ。
せあうこうしひしひと推附ハ祈うこれうこうこのこまのうれ

すこう海ごうてすぐれうこうこれ穀よ生れうる虫な
ま穀ハ穀ものこうけうら金ハたうこうら米の年と虫れい
虫とせこと糠とこあうこれこてこ時ハ虫ハうこれ蝗よ
今ハあうたに金ハあうこひうる米こもうこあうこ
うこうこて金祈ハうくこうこんこれ米うこせて米祈こう
ねうくごこうこれうこ毛虫のこうこれうこあうこれ米祈こうこ
ハうこれこて虫こうけすうこうこすあうこうこ毛穀蛮こうこう光
の代よ九年九洪水こうこれ穀蛮こうこう光
年九こうこうたうこうこてこうこ民ハうこれうこうこと
ならう殷の湯王ハ日てうこ民ハうこれうこうこと
の唐の太宗ハ蝗というこうこのこて田の扶こうこ
とうこうこあうこうこうこの法虫の左守みの虫民というこうこ
百姓とあうこうこあうこうこうこうこ飛よのこうこて口う殷を
こうこて金こと殷あうこうこうこれた虫のこうこうこうこ。国

乃あるべし殿のうち百姓いとのうち殿のうち殿のうち百姓
見さしてはいとうひとのうち百姓おのうち
ハうけたうの田代おさむひとのうちうのうちうのうちうのうち
さんハいあり代米と金よつて年とかさねた出うしハ
月てう清水大風といのうしハ今の
めうんとハあまう米の稲とちうとちうとちうとちうとちう
ちうすぐのまづきのかせけたく一年の米のあひ
とうとうまうけうの牧牛とちうとうとうとうとうとうとうとう
稲ちうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
海とうとう年とうのうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

うとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
又
天王寺まうとうとうとうとうとうとうとう
今ハしう法世坊ハうとうとうとうとうとうとうとう
ひさうの町とうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
堂とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
ホのホ門とうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
遠江とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
二月廿二日とうとうの蕨とうとうとうとうとう
とうとう毎年に天王寺乃とうとうとうとうとう
おうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
ちうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
ひとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
とうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとうとう

しきふくなりうきせ場くそをみけり
ふくそをうゑ井乃水ハうゑ川せまそうゑぬ法の力
とはすうひ五ゆとらてゐあよ打ふ見ゑそて
蓄積ぬ物くもあり三きう六十わまりうる男えんひけ
ろくさうやきハうひのをつろうふうんうかうぐうろくそて
れうつけとて枝とつきうろくやとをぬうめうあ
ゐごうちんをんてうろ見をのよ六人まうてくもと用一ゐ
よ庵うろけてゐうゑ見をのゆ中にゐうをゐ二ゐに対うろ
百ゐうをうんうをおさうをの山樵とうり出ゐうらに
ゐをとんとうをのまくひせゐつ毎乃まゐこをうろ
ふうゐおりてゐふをんぶぐやうよをうをうをうさうやをい
うをうひつをさうを男をうをとつうを見ハいゐをうをとい
せ見をゐのをてうをゐひううをとを立つをのをい立うら
ゐうくゐけなをいひせをうゐ男をよいうをてをの

とハ何ゆへよ柔うさうやさとふうこひけうそとつぶやきる
男ゆやうひとうを柔ふうて右さくのかうまついうさうた
ハけうくとしつうそも山せうよりもせうる射い羽のやうんと
称ゆまハ分ゆるものくとくくとうたうと呉今ひせて目のう
みうう海うれおゆ半毒のさうやうまんうみてうくとひろ
とやうんうくあくそうつうさ物うらゆうせゆまくといおく
こけうくいよくうちうとうて柔のさうやさとやうんよ物うちや
ひ情うさうちういでとのまうあうべうべうとうちうんうそうんでうう
浮世坊立ううてあひうひけうやうう海うれ法服そうう衣
方現うてひうるあううび嘘うちんうそあうさのうんうあうまを
いうのうひあうちうひあうひえううびひあてれうひあ
ううはあくきうあて物へまたゆせうのひせとうかうさんい
めひ柔うひよいううるうれハうんあんゆへといふ男うう
うるくは坊のはあうひとおとあれハゆうう物ううとゆむ

せうう男女と合てううびう浮世坊よりもハ遠所の法れうう
ざいうよハ南篠田ゆ中おのうのうあうあうあうあうませうせうい
ううんうて幾百よううせくいうあうませうせうい

六

住吉まうての事 附 情のうう酒干れうう

今ハむう〜浮世坊うれ知へとまうけうたのうひゆうて嘩
嘩物へうんとうひつうれ今住吉のうひうぬ津うの逆音あふ
橋のかゆ乃汲ふあううれてむうふう祈そこう祈
とうのうんう住吉の時祈うれうよ遊文まうそうびあうて
あけの西絵もうのうけうひうそう橋のうがうしも今あうあう
うう社乃程も丹後のうあくてうう西うあうて乳ゆうんそあうのう
六月晦日ハ南社の法授へうけまくうもゆ法祈ハいうう見の西日
四の西うたうふのかゆ程うあうまて法祈〜ゆひ〜ひ海うの波
ううう廣寿中寿表寿そう三社の祈あうれうあうぬう祈
功望右三韓とせあうひ〜時よ山の祈あうみう見とうて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

みちうりもくろうとあるこうぶけのよ飛脚よとこうろう時分に
ぼあいりくさうんの射学文とはこめぶらうへこうとちち
こたりてあるうろ雑ろ毎きあれて脚とうろ老てのら梅し
めるの大酒とのうてんみられあるまぬ行ここ酔狂してい
て後梅へ〜六ゆすと痛くまこ書状とうこ
うろ大痛とうろて梅へ〜ところ行まいひ梅とりこして井ふ
あ第つ射行う〜梅茅とはうろてぶあ〜今うろ命こうの
たと書つねうてあうれるうあこ色ふ先ら龍うと
とうあ〜弱よあうろ魚ハ餅とこのひうこ代梅ひてひこ方の
世ろのうこ海ろあうろ板よこ前き事ありうぶうろ浮
世訪ろあうれこ屋うろこ前ぶうろぬ者ひうろぬまこ先こへ
たゆけ大ろひあ〜茅京清補紀乃峠に
あうこ〜こ又このはやこのはまんうこ〜こ今ハこひ〜き
こいふこ行ろひもうこぶそのうこ屋ひあうひとせよこうろうあ

ぞうち領掌よたるさあけうち掌さ今ハ年くそのの時うまして
けうあとそびいくよとうれつくそそみうう
ゆくよるあうくされる屈きうあうれ若あ月日あるさ

九　餅よ嗜く後と屈くうれう

今年うう法世坊すてようのよのそそれ底やにうて
ものうとうひうう年ぞうさいひぞうあまうもうひてあ主主
者あくたのううのあくう後とうに年うとうれハ
いうのうふうおくくうんのもあくいうせんとあんどけうう
とうひうけううのあうと解よりいどのうにつまうしに間とうあ
ぞとあぞうに底やのあうとうぞめうあうう
うあまてを立ううてせおうとうとうくうにうれハつまううう海
ぞうくやとび出ねくんうう食うう人うんうぞくうさ世坊ハ
とあけなくあるやくやくうくよ大勝ううてかくどどううう
すうくあくくいうよあううのうふうりけつぞあ食てうう

とうくあるハあのは坊ハうにひせくまうぐいうとうに
たのううたうあううてせあくうとうううといあ法世坊ハあく
そうくうのううびせううあくたう大勝くうう食てうくにい
ううさんせくまうとうくうそうけてすあかくほうう
にたううあけいひまううてう後とうくう法てうあうくく
あうていうせうう

十　人よ癖あ仏事

今ハひくうのうう丸杜頭よたの後のくせうあ美よ後ハ
くせあうくいううれハうそう道張れ者ハ所に
人あうくれうの癖ハあうれ我あくゆうせうれう海ハ
ままくれくせうくせくうくうそうれうまうきうあうせうハ人
ぞうきうあうくくいのくせくゆう後のくせくがきくくく二
あうかううて屋定朔著にうまくくくうあうどうそうもうく
うれうあくくくぞうくあうくうくうく

十一

異人の事

今はむかし浮世坊うかれこまりひあるときさけうたれのち

異人ゆきあひてうたれ浮世坊しゐたせこの
よてうくみうてこひうちつ
ちいやいや坊は異人ゆきまたやうにうたつ
ちうちは和ちうひぐちうかしいやいて
も異人とりこひうは異人とりてうあ紙とりもしうあ
賊とりてすしいやうもうあ今はまうたぬもとりもう
あ月あうとつまうくうたもうあまた異人と求めて
異人より先さすうはあうさうたもまくせ乃中に異
まうあもたうのりまうくうたうあ又異ううたうあ世
あうまうたうのはうゆくそれうのまうくうこはうは海
く異うりのとうれたとのまうくうこいやうすくと
つうたうたうまれはやそひくとうたりのよ牡人
きくよおうたうのいのうつうのあうくうこ
てあのやうにいひあうとひうとう牡人異ちあはもとうくうひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]